



# 地域の生活問題と社会福祉実践に関する研究

保健福祉学部 人間福祉学科  
助教 湯川 順子（ゆかわ じゅんこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4517号室  
Tel 0848-60-1219  
E-mail yukawa@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 社会福祉学 生活問題論 実習教育

キーワード： 生活問題 地域 エイジング・イン・プレイス  
社会福祉士 実習教育

## ● 現在の研究について

### (1) エイジング・イン・プレイスの研究

これまで、社会的孤立問題対策としての地域福祉活動の可能性と限界について論じ(湯川 2011)、社会的孤立をとらえる視点について整理しました(湯川 2012)。現在は、どうすれば高齢者が地域のなかでつながりを保ち最期まで暮らし続けることができるのか、エイジング・イン・プレイスの条件についての研究に取り組んでいます。

### (2) 医療福祉アクセシビリティ阻害要因の研究

地域で安心して暮らし続けるためには、医療や介護など必要なサービスにアクセスしサービスを利用できる環境が欠かせません。高齢者になればなおさらです。しかし、医療制度や介護保険制度の改革は、「患者や利用者になれない」環境を作り出しています(湯川 2017)。病院で働く医療ソーシャルワーカーは、受診の遅れによって支援の困難性が高まった患者が増加していると感じています(湯川・田中(2017)『広島県医療ソーシャルワーカー調査報告書』)。また、未受診や受診の中断の背景には家族も含めた複合的な生活課題があることが分かってきました。

### (3) 地域での生活を支援する社会福祉士養成教育の課題 —実習教育を中心に—

相談援助の専門職である社会福祉士には、生活問題の全体像をとらえ、地域で誰もがどのような状態になっても、安心して暮らし続けるための支援を求められています。そのような求めに応えら

れる社会福祉士の養成について、実習教育の視点から研究しています。

## ● 今後進めていきたい研究について

社会保障・社会福祉の制度と生活実態との齟齬が生活問題をより深刻にしています。その点を明らかにする実証的な研究に取り組みたいと考えています。とりわけ、介護保険制度が前提としている「支援者の一員としての家族」や「キーパーソンとしての家族」といった家族像には当てはまらない家族や世帯が増えたことで生じている問題の研究を進めています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

対人援助専門の方と協働して、地域で暮らす高齢者とその家族の生活問題を「高齢者の生の声」を通して明らかにするような研究に取り組みめればと考えています。

## ● これまでの連携実績

平成 28 年度・29 年度の県立広島大学重点研究事業（地域課題解決）として、広島県医療ソーシャルワーカー協会の課題提案を受け、『医療ソーシャルワークにおける医療福祉アクセシビリティ阻害要因の研究 -重層的生活課題解決プログラムの開発-』に取り組みました。

平成 27 年度より、対人援助専門職の方を対象として、地域包括ケアや地域への働きかけなどをテーマとした公開講座を企画・実施しています。